

## 2-2 景観特性

地域の自然条件や土地利用の特性をエリアごとに分け、各エリアの景観の特徴、そのエリアを特徴づける景観資源、景観づくりの課題を整理する。各エリアについては、以下の範囲とする。

(1) 海・島嶼エリア



塩飽諸島と  
その周辺海域の景観

(2) 臨海エリア



瀬戸内海に臨む岸と  
埋め立て地の景観

(3) 都心エリア



丸亀城を核とする旧城下町  
のうち中心的都市機能が  
集積する市街地景観

(4) 丸亀城歴史エリア



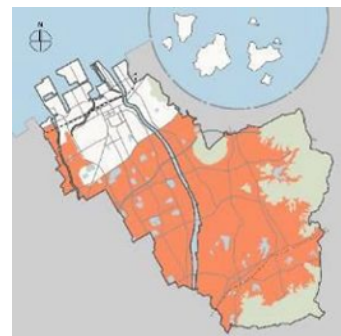
丸亀城旧外濠内の旧武家  
屋敷街やシビックゾーン  
などの景観

(5) 周辺市街地エリア



都心エリアの外側の  
市街地景観

(6) 田園エリア



周辺市街地エリアの西部  
及び南部の田園景観

(7) 山麓エリア



青ノ山、飯野山、城山、  
綾歌三山などの地域景観

## (1) 海・島嶼エリア



### 景観の特徴

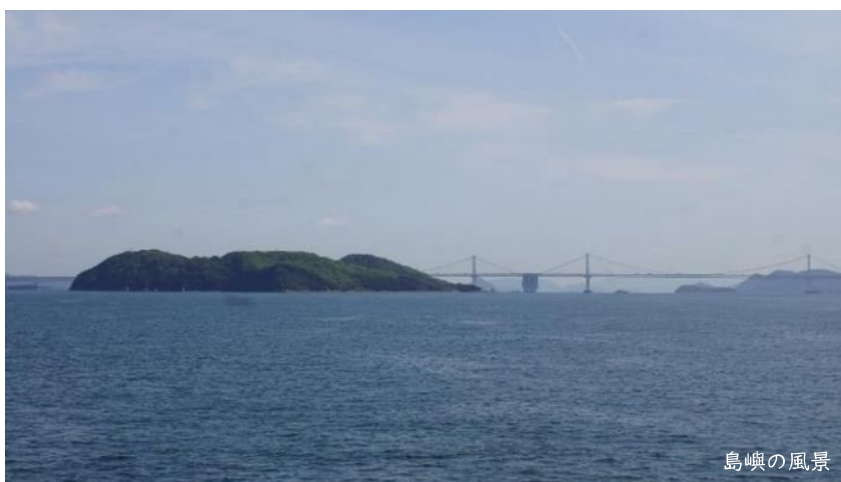
瀬戸内海国立公園に指定されている穏やかで明るい海と塩飽諸島の緑の景観、これに瀬戸大橋へのパノラマが加わり新たな魅力となっている。

本島の各集落には神社仏閣など歴史的文化遺産が点在しており、特に笠島地区は重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けている。

また、広島には石を切り出す丁場があり、独特の壮観な景観を形成し、石にまつわる信仰や生活文化と関連する資源が残されており、本島とともに日本遺産の構成要素となっている。



## 景観資源



## 景観づくりの課題

- 豊富な歴史文化遺産や自然環境を今後も守っていく必要がある。
- 観光につながる資源が豊富であり、日本遺産の認定を契機として、滞在魅力を高める景観形成につなげることが必要である。

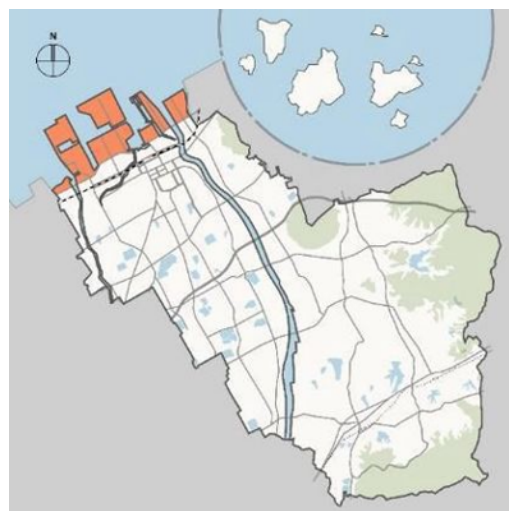
## (2) 臨海エリア



### 景観の特徴

近世以降塩田がひろがり、中津万象園に近い中津海岸をはじめ、浜は市民のレクリエーションの場としても親しまれてきたが、現在、臨海埋立地は、工業地をはじめ競艇場、港湾となっている。

市民がこの地区を利用し水際の景観を楽しむ機会は少ないが、島嶼部とつながる玄関口であり、また瀬戸内の広がりある景観を眺望できるなど丸亀の魅力的な環境と景観を形成していく上で重要なエリアである。



## 景観資源



## 景観づくりの課題

- 島嶼部とつながり人々を迎え入れる海の玄関口として、景観魅力の形成が必要である。
- 広がりのある眺望景観を守り育てる必要がある。

### (3) 都心エリア



#### 景観の特徴

都心エリアは、旧の商人町を受け継ぐ商店街をはじめ、丸亀駅や猪熊弦一郎現代美術館が立地し、丸亀の都心機能が集積するエリアから構成される。

市街地は、通りと筋による格子状の街路網を持つ旧城下の町割りを受け継ぎ、縦横に商店街が発達し、丸亀の商業や業務の中心となっている。



## 景観資源



猪熊弦一郎現代美術館



丸亀市通町商店街



町家を活用した交流拠点

## 景観づくりの課題

- 商店街の空き店舗、及び市街地における空き家の増加が進んでおり、にぎわい景観を再生していくことが必要である。
- 町家等が失われるとともに、それらが駐車場や空地等の低未利用地になっており、地域資源として活用した景観形成を図っていくことが必要である。
- 駅前の景観の本市の顔となる景観形成が必要である。